

令和6年度 学校評価表(計画・**中間**・最終)

【 5月末・**11月末**・3月初旬 】

学校名(熊野第三小学校)

a 学校教育目標	自ら鍛え つよく かしこく 自ら磨く やさしい子	b 経営理念 ミッション・ビジョン	熊野町教育行政方針「学ぶ力と豊かな心の実現」 共に高まり合う 熊三小 学校文化の創造
-------------	-----------------------------------	-------------------------	---

評価計画(5月末提出)					自己評価				学校運営協議会委員による評価			n改善方策			
c 中期経営目標 (3年後を見据えて)	d 短期経営目標 (今年度)	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	h 10月	h 2月	i 達成度 i=h/g	j 評価 A~D 4段階 評価	k 結果と課題の説明 (短期経営目標につ いての評価結果)	l 自己評価に関する評価 (関係者評価者の合計人数)			m コメント	10月	2月
					イ 適正	ロ 不適 正				ハ 分 か ら な い					
<p>・・・ 健確豊 やかな かなな 学心 体力の 育成</p> <p>学びを深める子(わ かる・できる・やりたい 力)の育成</p>	<p>・「やりたい!!」が あふれる学校づくり ～ポジティブ行動 支援を通して～</p>	<p>・「やりたい!!」を後押しす る学習指導の工夫</p> <p>・体力・健康・安全に関する 学びの充実</p> <p>・よりよい集団をつくるため の取組の進化</p>	<p>・発達段階別の児童 への意識調査 (肯定的評価の割合: ア)</p> <p>・教職員への意識調 査 (肯定的評価の割合: イ)</p> <p>・学校適応の評価 (アセス生活満足度 適応群40以上:ウ)</p>	80%	80.2%		100.3	A	<p>・児童は自分で選択肢を選 んで学習に取り組み、自身 の理解につながったと感じ ている。</p> <p>・児童の実態に応じた本時 の選択肢について明確に なりつつあるが、その効果 の実感については、児童と 教師との隔りがある。</p> <p>・ロング屋休憩や体育館遊 びを計画的に行った。保健 朝会や生活リズムチェック では、学校医や保護者を 巻き込んだ取組を行うこと ができた。</p> <p>・熊三サーキットの徹底や 体育館での体育科授業づ くりの工夫が必要である。</p> <p>・年度当初から縦割り班で の活動を取り入れたこと により、異学年交流が進んだ が、その中での望ましい行 動についてのフィードバ ックは十分ではない。</p>				<p>・ラーンユニットを回す こと、特にアウトプットと 適用題を意識した授業 を組み立てる。</p> <p>・熊三サーキットや準備 運動の中に体を使った 遊びを取り入れること で、運動することの楽し さを感じさせ主運動へ つなげていく。</p> <p>・時間を確保したり視点 を与えたりして、異学年 交流での望ましい行動 をフィードバックしてい く。</p> <p>・SWPBS推進委員会を 中心に、データを基にし た支援方法などについ て、意思決定していく ことをさらに充実してい く。</p>		
<p>その他</p> <p>児童 教職員 保護 者 地域と共に創る 学校文化の創造</p>	<p>1 学校を「触れ合 い」「憩い」の場に</p> <p>2 「子供基点」の 豊かな教育活動の 展開</p>	<p>1-①CSルームの活用の工 夫</p> <p>1-②くまSUNクラブ・くまSUN 寄合の充実</p> <p>2-①生活科・総合的な学習 の時間への地域人材の活 用</p>	<p>・保護者への意識調 査 (肯定的評価の割合: エ)</p> <p>・教職員への意識調 査 (肯定的評価の割合: オ)</p>	80%	77.8%		97.3	B	<p>・学校だよりや広報「く まの」、CS担当教員に よるCSだより等を通じ て、CSの取組について 情報発信を行った。</p> <p>・運営委員会のCS担当 児童がくまSUNクラブ・ 寄合のチラシを作成し、 多数の参加者があつた。</p> <p>・年間指導計画に沿っ て、生活科や総合的な 学習の時間に地域人 材を活用した。</p> <p>・CSの取組に対する教 職員の当事者意識に は差がある。</p>				<p>・引き続きCSの取組 について保護者や地 域へ情報発信を行う とともに、教職員が当 事者意識をもってCS の取組に参画できる よう取組状況を可視 化する。</p> <p>・年間指導計画を基 に、各学年学期に1 回以上は地域人材を 活用していく。</p>		

j評価 A~D 4段階評価

学び続ける力の育成 思いやりの深化 学校・地域の連携強化

- A: 100 ≤ (目標達成)
- B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
- C: 60 ≤ (もう少し) < 80
- D: (できていない) < 60